

工 化 時 報

発行所
東京都千代田区
神田駿河台1-8
日本大学理工学部
工業化学科内
工化会報委員会

編集委員会

- | | | | | | |
|----|------|----|----|----|----|
| 次良 | 伊藤和雄 | 市川 | 渡辺 | 山崎 | 浅野 |
| 俊夫 | 南山 | 一男 | 香織 | 吉井 | 山崎 |
| 孝志 | 永島 | 孝節 | 丸山 | 武井 | 野村 |
| 誠 | 森田 | 志 | 山木 | 野村 | 藤田 |
| 史 | 辻 | 香織 | 丸山 | 武井 | 野村 |
| 雄一 | 丸山 | 智子 | 山木 | 野村 | 藤田 |
| 悟 | 丸山 | 智子 | 山木 | 野村 | 藤田 |
| 久元 | 丸山 | 智子 | 山木 | 野村 | 藤田 |
| 修一 | 丸山 | 智子 | 山木 | 野村 | 藤田 |
| 美加 | 丸山 | 智子 | 山木 | 野村 | 藤田 |
| 子 | 丸山 | 智子 | 山木 | 野村 | 藤田 |
| 恵 | 丸山 | 智子 | 山木 | 野村 | 藤田 |
| 子 | 丸山 | 智子 | 山木 | 野村 | 藤田 |
| 雅 | 丸山 | 智子 | 山木 | 野村 | 藤田 |

“Never to be late
for learning!”



細谷化工株式会社

取締役社長 細谷 文夫

今から一〇年ほど前、私が勤めている会社で人工衛星の姿勢制御用燃料の開発に取り組んだことがあった。結果は途中でギブアップしてしまった。この時ほど人生五〇年間の不勉強を悔やんだことはなかった。そんな時に日大の大学院理工学研究科を社会人にオープンするという新聞記事を目にした。真っ暗闇の中で光を見たとは、まさにこのことであつた。丁度五〇歳、もう一度基礎から勉強しようと思つた。

合同入学式に出席すると、会場の案内係の人が、当然のように父兄席へ案内してくれた。騒々しいので口で言っても相手に聞こえないので、頭を横に振った。恐縮して教授席へ案内された。未だ社会人大学院生制度が始まったばかりだったためか、シルバークレイのためだったの

か。日大の工業化学科には、東工大から来られた安全工学の崎川範行教授や有機合成の板橋国夫教授がおられるので指導を受けたいと考えた。ただ、崎川先生は、既に教室を離れて大学院の講座だけを受け持っておられた。そこで、板橋研究室に入れて頂いた。これが板橋先生に六年間もご苦労をお掛けする始まりとなつた。私にとっては大変な幸運であつた。先生から会社に勤務している者は、授業を可能な限り最初の一年間で取るよう指導を受けた。その結果、週の内、一日は朝から夜の授業まで受けた。後二日は、夜の授業を受けた。授業が面白く、受けるのが楽しくて、三〇年前の学生時代とは大きな違いであつた。私の研究課題は、宇宙で用いる高工ネ

ルギー物質(爆薬)の合成と特性値であつた。学会で最初の研究を発表したら東京大学工学部の吉田忠雄教授(現法政大教授)から共同研究の声が掛かり、特性値の指導を受けるようになった。会社と日大と東大の三重生活が始まつた。ちょうど吉田研では、消防法の危険物試験方法についての検討を行つていた。見るもの聞くものが、楽しく嬉しく、興味が次から次へと湧き、青春真っ只中という気分であつた。

この六年間で一度だけ徹夜をしたことがあつた。ノートの整理に夢中になり気がついたら東の空が明るくなつていた。その日は、授業中に寝てしまった。この時ほど自分の体力の衰えを感じたことがあつた。それはアメリカからのお客さんを成田に迎えに行つて、帰りに交通渋滞に巻き込まれてしまったからで、午後七時半に終わる授業なのに七時一五分に教室に飛び込んだ。数学の戸川隼人教授から、折角来てくれたのに一五分間だけしか話しか出来なくて、スマナイと謝られた。この時に自分の人生観が変わつたような気がした。院生は、是非とも戸川教授のコンピュータ・アーキテクチャーの講座を受けることをお奨めする。教室で戸川教授の講義を聴いている間は、絶対に解つたと思ひ込んでしまふから不思議である。

工業化学科にインターネット



九五年の秋に工業化学科にネットワークサーバーが導入されました。今話題のインターネットともつながつていて教員や院生が活発に利用しています。九六年度からは四年生にもアドレスを発行する予定です。ホームページも開設して、E-MAIL(所在を示す)も試みて下さい。

◎参考：細谷化工株式会社
本学部土木工学科
一般火薬学担当

「Never to be late for learning!」
これを意識すると
勉強したい時に勉強するのが一番!

研究室訪問

有機工業化学研究室

田村 利武 教授



秋久先生 深津先生
田村先生

油化学研究室から独立したことに始まりその後再び油化学研究室と一緒に現在に至っています。油化学研究室の設立が昭和二四、五年のことなので、その事を含めると有機工業化学研究室は、工業化学科の中でも一番古い研究室の一つで

今回の研究室訪問は、有機工業化学研究室です。有機工業化学研究室は、二階と三階にあり田村先生、秋久先生、深津先生の三人の先生と大学院生や研究生など全部で四十人位の大きな研究室です。私たちは三階にある田村先生をお訪ねしてお話を伺いました。

現在、有機工業化学研究室で研究されている内容は三つあり、一つ目は有機材料の開発をバイオ的な手法を用いて行うものです。これはリパーゼを主に扱うもので深津先生が中心になって研究しています。二つ目は秋久先生が中心になって行っている生理活性物質の研究で、主にステロイドについて研究しています。三つ目は機器を使う有機材料のキャラクタリゼーション、構造解析、組成解析で、前述の二つの研究とも密接な関係にあり、それぞれの先生が取り組んでいます。ステロイドの研究は油化学研究室から引き継がれてきたものであり、昔は先生もこの研究をされていたそうです。

田村先生は、九州の佐世保の生まれで育ちは神奈川県横須賀、逗子です。旧制横須賀中学(現横須賀高校)から、軍人の学校に入学されましたが、戦後に学校がなくなってしまうので日本大学に編入学されたそうです。もともと油に関心があったので、油化学研究室に入られて卒業されてからも大学で研究を続けられていました。昭和三七、三八年には、カナダのハリファクスの研究所に留学され、このときに、まだ日本にはなかった機器を使った研究、リパーゼを使った脂質の構造解析などバイオテクノロジーのはしりに興味を持たれたのがきっかけで現在の研究に方向転換されたそうです。



集まるそうです。このように研究室の雰囲気は良く保たれているのも、大学生生活最後の一年を楽しく過ごしてほしいという先生の願望によるものだと思います。

先生は、今の学生も昔の学生も根本的には同じだと言います。今の学生には、一生の内でも最も勉強しやすい学生の間みっちり基礎を学ぶ事が一つ。広い視野と教養を身に付ける努力をする事が一つ。この二つが先生が学生に望む事だそうです。先生御自身も若い頃は、昼はよく研究して、夜は研究室から遊びに出かけていたそうです。こうしてみると先生も私達に似ていたと感じます。先生は今でも学校時代の仲間達と毎月勉強会を開いており、専門以外の様々な分野を勉強されています。卒業してからもつき会える仲間を作ってほしいという事もおっしゃっていました。

す。お酒も好きなのですが、体を壊したので今は控えているそうです。今回の訪問では授業とは全く異なった先生の学生への優しさが伝わってきました。授業中は厳しいのですが、話を聞いてみると学生思いな先生でした。また、真面目なだけでなく、趣味や若い頃の話から私達と同じという親近感を覚えられました。最近では体調を崩しているそうです。体が気を付けてこれからは頑張ってくださいと思います。(学生編集委員)



元気をだそうよ!

ここ数年、就職で女子学生が苦戦を強いられています。最近、学生当たりの女子学生の割合が急激に増えているので、その推移を卒業生について調べてみました。その結果、平成五年度までは、一五%前後だったのに対し、平成六年度以降は二〇%前後に推移していました。さらに在学中では四年生で二七%と高く、三年生も二二%となっています。本学科でも女子の進出が目立っているようです。情報交換して元気をだそうよ!女子学生。

工 化 会 掲 示 板

工科校友会工業化学部会(工化会)では「工化時報」(毎年)、「工化会名簿」(5年毎)の発行を行っております。「工化時報」ならびに「工化会名簿」の一層の充実のため卒業生各位におかれましても以下の点についてご協力をお願い致します。

「工化時報」について

- 現在の「工化時報」についてご意見をお寄せ下さい。
- 「工化時報」に原稿をお寄せ下さい。

「工化会名簿」について

- 名簿上不明の方で住所または勤務先などをご存じでしたらお教え下さい。
- ご自身の住所が変わりましたらご連絡下さい。

連絡先

- 工化会所在地: 101 東京都千代田区神田駿河台1-8
- 日本大学理工学部工業化学科
- 学内会報委員: 滝戸 俊夫 (電話: 03-3259-0800)
- 澤口 孝志 (電話: 03-3259-0819)
- 名簿作成委員: 村川 信子 (電話: 03-3259-0827)
- 櫻川 昭雄 (電話: 03-3259-0802)

工業化学科 FAX: 03-3293-7572

'95 就職状況

就職指導
教授 真下 清

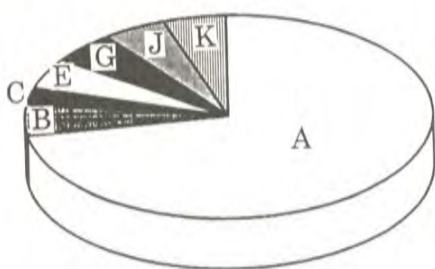
超氷河期と言われ続けた平成七年度の就職状況について工業化学科を中心に概観してみよう。正直なところ本当に苦しい一年間であった。バブル崩壊後の急激な円高による国内産業の空洞化による不況の波が一挙に押し寄せてきた感があります。特に女子学生の就職は全くの水掛けと言った状況で打つ手なしというのが実状ではなかったかと思えます。

工業化学科への求人会社数は四〇〇社この内直接人事担当者が教室に来校して依頼した三三社を含めて八一社が理工学部就職指導課を通さずに教室に依頼して来た数です。平成六年度でも六〇〇社以上の求人があったのですから大幅な落ち込みは歴然としています。

ここ数年学生の就職活動は学校を通さない自由応募の形で、入社試験にチャレンジする学生が多くなっているのが特徴です。理工学部の学部全体では、平成七年度の自由応募による内定率が五四％とついに五〇％の壁を破りました。大学院は、六〇％が学校推薦による内定です。学部とは多少違っていますが、それでも平成六年度は六七％が学校推薦でしたから、自由応募による内定率が増えていることが分かります。この傾向は今後も続くでしょう。工業化学科でも大多数の学生が自由応募で飛び回ったのが実状です。教室就職事務室には、年度始めはほとんど訪れる学生がなく、学生の活動状況を把握することが困難でした。各研究室の先生も自分の部屋の学生が、どう運動しているか理解できなかったのではないのでしょうか。

平成7年度就職状況一覽

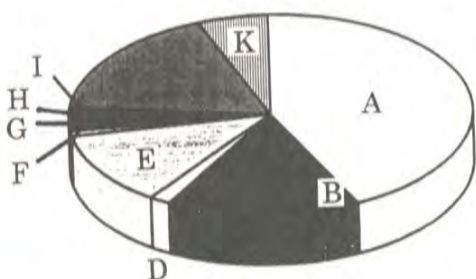
大学院



(単位名: 件)

A-製造業	29 (72.5%)
B-建設・プラント	2 (5.0%)
C-商業	1 (2.5%)
D-電気・ガス・通信	0 (0.0%)
E-情報・サービス	2 (5.0%)
F-金融など	0 (0.0%)
G-教員	2 (5.0%)
H-公務員	0 (0.0%)
I-非営利	0 (0.0%)
J-進学	2 (5.0%)
K-その他	2 (5.0%)
合計	40

学部



(単位名: 件)

A-製造業	101 (43.2%)
B-建設・プラント	7 (3.0%)
C-商業	29 (12.4%)
D-電気・ガス・通信	4 (1.7%)
E-情報・サービス	28 (12.0%)
F-金融など	2 (0.9%)
G-教員	5 (2.1%)
H-公務員	2 (0.9%)
I-非営利	2 (0.9%)
J-進学	41 (17.5%)
K-その他	13 (5.6%)
合計	234

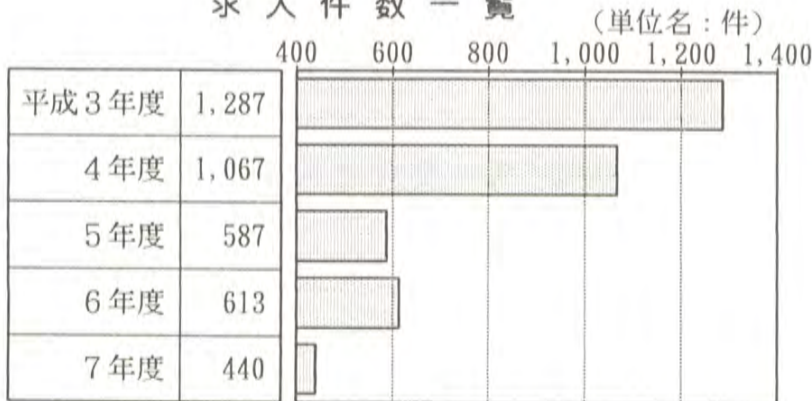
分中企業が激戦になり、学生は苦戦を強いられたわけです。女子学生で一回の受験で内定がたつケースはほとんどなかったでしょう。それでも一月末現在で就職希望学生の内、院生は九七％、学部生は八九％が内定を勝ち取ったことをみるとやはり理系系学生の強みが発揮されていると思えます。未定学部生一％は大きな数字ですがその内かなりの数がすでに内定をもらっていると思われませんが、就職事務室に報告がなく未定として扱っているためこのような数字になったものと言えます。

平成八年度も就職状況が好転する保証は何もありません。大企業に限らず、中小企業でも少数精鋭の求人指向をとっておりましてやはり地道な普段の実力涵養が大事です。特に女子学生にたいする企業のみる目には厳しいものがありますので、心して学生生活を送る必要があります。

平成7年度 主な内定企業名

アプライドマテリアルズジャパン、アスク、アマノ、出光石油化学、岩手東芝エレクトロニクス、エルナー、小川香料、関東化学、ザ・インクテック、山九、昭和、高分子、昭石ガス、新日鉄化学、新東塗料、純正化学、スズカファイン、住友大阪セメント、住友生命保険、ゼネラル石油、ゼネカ薬品、タムラ化研、大日本印刷、大王製紙、大和ハウス工業、秩父小野田、千代田火災海上保険、東亜合成、東京インキ、東京応化工業、東急建設、東洋高砂乾電池、ニチメン、新潟工事、新潟鉄工所、日東化学工業、ヘキストジャパン、富士コカコーラボトリング、ヘレンカーチスジャパン、マルホ、三井木材工業、ヤクルト、ユタカ技研、ラサ工業、大蔵省造幣局、東京消防局、日本大学理工学部(副手)

求人件数一覽



☆☆☆☆☆ 卒業生の皆様へお礼 ☆☆☆☆☆

村川 信子

工業化学科に籍を置いて約30年間、主に学生の就職に関しての仕事に従事してきました。皆様ご存じの様に本年度は不景気のおおりにまともを受け、今までになく求人数が減少し、特に女子学生(大学院、学部を合わせて)の就職希望者は過去最高60名)にとっては超氷河期と言われるように大変な状況で苦慮しましたが、多くの卒業生の皆様に大変にご尽力をいただき、お陰様で男女共にほぼ全員採用内定になりました。この誌上をもって厚く御礼申し上げます。今後とも学生の求人にたいして、皆様のお力添えをいただければ幸いです。求人につきましては下記の住所にご連絡下さいますようよろしくお願いいたします。

〒101 千代田区神田駿河台1-5-1
日本大学理工学部工業化学科 教室事務 宛
☎ 03-3259-0827 FAX 03-3293-7572



学生の自分は学業であるとしてよく聞きま
す。わが日本大学理工学部工業化学科で
はどうでしょうか。

今回の企画では工化の学生が大学で日
頃、どのようなことを考えて行動してい
るのか? 全学年を対象として各学年約
五〇名をランダム抽出してアンケートを
とりました。なお、質問の内容としては
学科や講義に関することや、遊びや異性
に関する事など、様々な質問を設けま
した。アンケートに答えてくれた学生の
皆さん、御協力ありがとうございました。

まず、工化を選んだ動機について一
二年生に聞きました。
その結果、「化学が好き」「面白そう」
「研究者になりたい」など、積極的な動
機を持って入学された人が多いのには驚
きました。

反面、入学して志望した理由との違い
があったかの質問については「思ったよ
りも物理の講義が多い」「講義のレベ
ルが予想以上に高い」などの意見に見ら
れるように、なかなか安易な動機だけで
授業についていくのが厳しいようです。

化学が得意でも物理は苦手という学生
も多いことと思いますが、残念ながら化
学も物理も密接な関係にあるため、工化
といえども物理系の講義が設置されてい
ます。また、高校までの授業と比べて大
学の講義はより専門的になるため、物理
の苦手な人にはなおさら辛いことでしょ
う。目標を見失うことなく頑張ってほ
しいものです。

さて、このように志を抱いて入学して
きたはずの学生が、この先どのように変
わっていくのかについて示してくれたの
が、三・四年生に対する将来の夢につ
いての質問です。「特になし」との回答が
大半を占め、その他の回答でも、真面目
に将来について回答してくれた人はほと
んどいませんでした。

なぜ、学生は短期間の間に意欲を失っ
てしまうのでしょうか?
これについて考えるために、講義に関
する質問について、各学年の回答を比較
してみようと思います。

まず、「必ず出席する講義は何か」と
いう質問については、一・二年生及び三
年生ともほとんどの人が「実験」と回答
しました。実験では出欠確認を必ず行
いますし、かつ必修科目のため、当然のこ
とと考えられます。

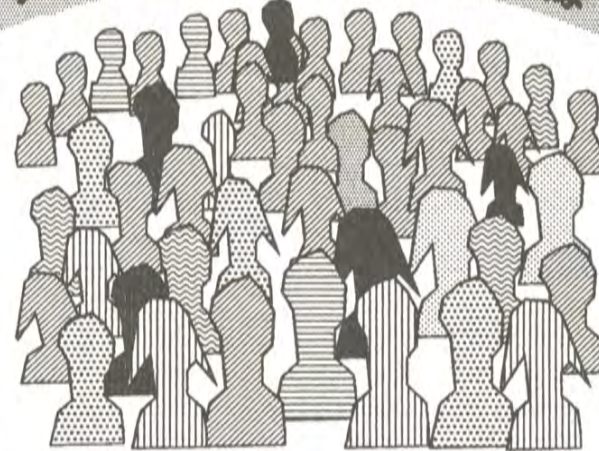
ただし、「実験」に対する印象につ
いては一・二年生と三年生とで違
いがあるようです。
「印象に残っている実験は、何
か?」という質問に対しては、一
年次に行われる基礎化学実験の
「定性分析」を挙げておりその
理由として「未知試料を自分で
探し出すことが面白かった」

「いろいろな物質の特性を知るこ
とができた」などの意見を上げ
ています。つまり、高校ではた
だ覚えるのみだった化学の知識
を、実際に自分の目で見て確
められたことに新鮮さを覚えた
のだと思います。一方、三・四
年生に対して同じ質問をしたと
ころ、様々な回答が得られまし
たが、結局のところ「レポートが大変」
や「帰りが遅くなる」といった理由ば
かり先立ち、辛さばかりが感じられる実験
を挙げる人が多く見られました。

すなわち、学年が上がるにつれ新鮮
さを失い、実験を積極的にやる気持ちは薄
れるけれど、出欠確認を必ず行うため、
仕方なく出席している人が多いと考えら
れます。

次に「興味のある講義は何ですか?」と
いう質問の回答について考えてみます。
学年によって回答に違いがありますが、

アンケートが語る今風学生像



これは設置されている講義が異なるため
でしょう。学年ごとに見ると、一・二年
生では専門科目や語学などの一般科目に
人気があります。そして三年生は専門科
目に、四年生は語学に人気が集まってい
ます。人気の理由としては、概して教員
の印象によるところが大きいです。
ただし、そういう楽しい講義というの
は、かなり限られているようです。私自
身、よく目にするのは出席していれば単
位をもらえると考えている学生が、授業
中、後ろの席で騒いでいる光景です。講

義の内容や、レベルの高さについていけ
なく、あきらめがでてくるのでしょ
うか? このような実験や講義に対する姿勢
は四年生で所属する研究室選びに影響し
ます。この質問に対しては三・四年対象
に行いました。三・四年とも、教授・研
究内容・研究室の雰囲気によって研究室
の決定を行っている人が当然のことなが
ら多いようです。
残念なことには楽なところとか、休みの
多いところとか、消極的な観点から研究
室を選ぶ学生の多いのには驚きました。

学生生活を楽しむのはよいことだと思
いますが、最後の一年位、一生懸命実験に
励んでみてはどうでしょうか? 楽な研
究室というのは存在しませんし、単なる
学生間の時にしか過ぎません。研究室選
びの際には悔いあまり気にしないほう
がいいと思います。何のために大学に入学
して来たのか? もう一度考え直して
、有意義な大学生活を送ってください。
話題を変えて、アルバイトについて聞
きました。予想通り沢山の職種がありま
した。アルバイトを一週あたりする回数
は、平均してみると三年生では、三回
程度になっているようです。四年生にな
ると二回程度になります。これは、卒業研究で
忙しくなるためと思われる。
次に遊び場所について聞いたところ、
三・四年生の人にはやはり駿河台に校舎が
あるためか、山手線の繁華街が多くを占
めているようです。これに対して一・二
年生は津田沼付近で遊んでいると予想し
ていましたが回答は以外にも東京近郊で
遊ぶという回答が多く見受けられました。
びっくりしたのは、「彼女の家」とい
う回答を一名の方から頂きました。ほ
どにしました。

「講義と講義の間があいた時、どんな
ところで時間を潰しますか?」という質問
については、四年生は当然のことながら
研究室がダントツに多いようです。三年
生は時間の潰し方に少々困惑がうかが
えます。
食事に関しては一・二年生は習志野校
舎です。当然ながら学食で済ませ
ます。しかし、三・四年生になると二
八号館からは日大の学食は遠く狭いため
マックや明大の学食などで済ませ
ています。また、弁当を買って来て研
究室や教室で食べるという人も
います。

「海外旅行をしたことがありますか?」

という質問に対しては、学年に関係なく
約二割の人が経験しており、場所もハ
ワイやカナダなどメジャーなところ
に旅行しているようです。

最後の質問は現在、付き合っている人
がいるかどうかについては意外?にも付
き合っている人のほうが少ないよう
です。理由は女性に対しての弁舌が訓練されて
いないからでしょうか?、あるいは男女
の割合によるものでしょうか?...

人は遅かれ早かれ最愛の人と結ばれる
ものです。あせらずがんばりま
しょう。これらの質問を通して工化生の学生生活
がある程度、のぞけたように思えます。
勉学以外には他学科生と似たり寄たり
でしょう。しかし勉学面は、「学生の本
分は学業である」という言葉にまだ遠い
存在にあるということが分かりました。
皆さん、自分をより一層磨くため、教養
を身につけ、学問に研究に今一層の努力
を私達と共にしていきたいと思います。
(人生に積極的な?学生編集委員達)

アンケート抜粋

- Q: 工業化学科を志望した理由を教えてください。
A: 化学が好きだから・物理が苦手だから・面白そう・何となく など
- Q: 将来の夢を教えてください。
A: 幸せな結婚・お金持ち・無回答・未定 など
- Q: アルバイトについて教えてください。(職種・回数)
A: 職種はレストラン・塾講師・コンビニ・居酒屋 など
回数は3回・5回・2回・1回
- Q: 自分がよく行く遊び場所はどこですか?
A: 渋谷・新宿・池袋 など
- Q: 海外旅行をしたことがありますか?
A: ある 24%